

福祉みやぎ

CONTENTS (主な内容)

P2 特集

『高齢運転者の運転免許証自主返納について』

P4 Heart&Works

『治療と仕事の両立について』

P6 ひと・まち・こころ

P7 グッジョブFUKUSHI

P8 ちいきをつなぐ

P9 市町村社協レポート

P10 復興宮城のいま

P11 いきいきシニアだより
こんなことやってます

P12 県社協掲示板



タイトル 「青龍」

作者 阿部 繁夫さん (東松島市)

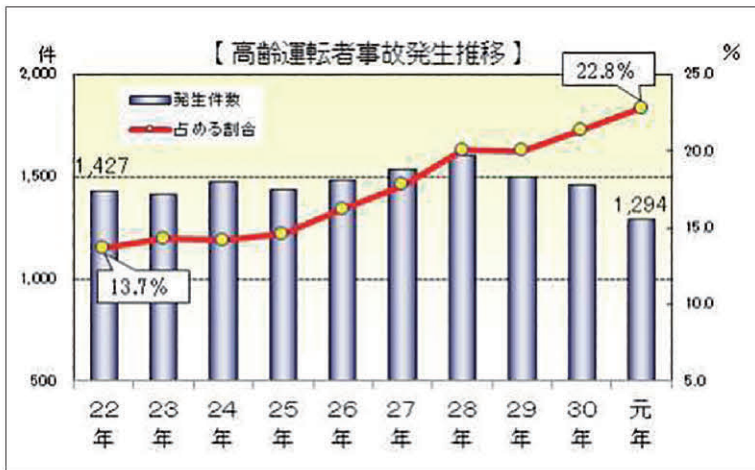
第28回宮城シニア美術展 工芸の部 最優秀賞作品

『高齢運転者の運転免許証自主返納について』

近年、高齢運転者による歩行者を巻き込む交通事故やアクセルとブレーキの踏み間違いによる交通事故が大きく報道されるなど、高齢運転者による悲惨な重大交通事故が後を絶ちません。高齢化が進み、今後も高齢運転者の増加が見込まれる中、このような事故を防止する対策が必要不可欠となっています。その対策の一環として運転免許証の自主返納制度があります。この制度は、加齢などによる身体機能の衰退や、判断力の低下などにより安全な運転に支障があるなどの理由から、運転免許を返納したいという方が自主的に運転免許証を返納する制度です。

宮城県における高齢運転者事故の発生推移

県内の過去10年間の全人身



交通事故に占める高齢運転者事故の割合は、図のとおり平成22年の13.7%から令和元年の22.8%へと右肩上がりに上昇しており、高齢運転者対策が喫緊の課題となっています。

自主返納について考えてみよう！

● 加齢による「運転リスク」とは？

視野障害や身体機能低下、筋肉の衰えなどにより、運転時の操作ミスが起こりやすくなります。ハンドルやブレーキなど不適切な操作による交通事故の割合は、75歳以上の高齢者の場合、一般ドライバーの約2倍になります。

● 「こんな症状」が出たときが要注意

- 右左折のウィンカーを間違っ出て出したり忘れたりする。
- 歩行者、障害物、他の車に注意がいかないことがある。
- カーブをスムーズに曲がれないことがある。
- 車庫入れの時、扉や壁をこすることが増えた。

● 「若い頃とちょっと違うな」「家族、友人から運転が危ないと言われた」「おかしいな」と感じたら、自主返納の時期です。

家族と一度、免許返納について話し合ってみて下さい。

教えて自主返納！

運転免許証の自主返納の申請は、県内の各運転免許センターまたは県内の各警察署交通課で受付しています。詳しくは宮城県運転免許センターまたは各警察署交通課までお問い合わせ下さい。

教えて運転経歴証明書！

運転経歴証明書は、申請による運転免許証の取消しを受けた日、または運転免許失効日前5年間の運転経歴について、免許の種類や優良運転者、一般運

者、または違反運転者等に区分が表示された書面(カード)です。

運転経歴証明書は、生涯有効で公的な身分証明書として利用できません。また、氏名、住所の変更も可能で、紛失や破損等した場合に再交付を受けることもできます。

運転経歴証明書交付申請は、県内の各運転免許センターまたは県内各警察署交通課で受付しています。各運転免許センターと気仙沼警察署では、即日交付が可能です。気仙沼警察署以外の警察署では、後日交付となり、交付手数料(県収入証紙) 1、100円(令和2年10月現在)が必要です。詳しくは、宮城県運転免許センターまたは各警察署交通課までお問い合わせ下さい。



運転経歴証明書の 特典・助成について

一部の地区交通安全協会加入者は、同協会から手数料の全額または一部の助成を受けられる場合があります。また、運転経歴証明書を提示することにより各市町村において交通費や施設利用代金等の助成・特典などを受けられる場合があります。詳しくは各実施機関にご確認下さい。

自主返納された民謡歌手 庄司恵子さんへのインタビュー

令和2年10月8日、運転免許証を自主返納された宮城出身の民謡歌手庄司恵子さんにお話を伺いました。

—今回どうして自主返納しようと思ったのですか？

庄司…高齢運転者の重大交通事故のニュースを見て、私自身もショックを受けるとも

に、他人ごとではないと思いました。私も来年80歳になるので、心身がしっかりしているうちに自主返納しようと考えました。

—今後、運転ができなくなりますが不安はありませんか？

庄司…不安は、ありません。だってもう免許はないのですから。新たな人生のスタートだと思えばワクワクしています。また、運転経歴証明書を提示するだけで交通機関の運賃割引サービスも受けられますので有効に活用したいと思います。

—返納を考えている人や高齢運転者にメッセージをお願いします。

庄司…年を取ると体の色々なところが衰えてきます。大きな交通事故を起こす前に免許返納をしてほしいと思います。皆さん素直な気持ちで考えて下さい。

本件問い合わせ

宮城県運転免許センター

電話:022-373-3601



治療と仕事の両立支援について

～宮城県産業保健総合支援センターの取り組み～

現在、日本は高齢化が大きな問題となっています。今後はさらに人口は減少、高齢化が進み、生産年齢人口比率の減少が加速します。そんななか、医学的な進歩により病気を抱える人の就労の可能性が向上しています。今回、治療と仕事の両立支援について、宮城産業保健総合支援センターの職員の皆さんにお話を伺ってきました。



宮城産業保健総合支援センター

宮城産業保健総合支援センターでは、健康で安心して働ける職場づくりをサポートしています。主に事業場の産業医や産業保健スタッフ・管理監督者などに対しての研修、産業保健の専門家による相談対応、病気になっても働き続けられる職場づくり（治療と仕事の両立支援）へのサポート、メンタルヘルス対策支援、ホームページやメールマガジンでの産業保健に関する情報の発信などを行っています。また、産業医の選任義務のない50人未満の小規模事業場への各種産業保健サービスは、県内7か所の地域産業保健センターが無料で提供しています。

治療と仕事の両立支援については、働き方改革実行計画の柱の1つにもなっており、会社・患者（労働者）・医療機関への周知啓発等を行い、会社が両立支援のできる環境を整えるための支援を行っています。

治療と仕事の両立はなぜ必要なのか

近年、医学的な進歩によって、がん患者における平均入院日数は短くなり、通院しながら外来で治療を受

ける患者が増えています。以前は病気になると働くことは難しいとされてきましたが、治療を受けながら働くことが可能な世の中になり、病気になったからといって離職する必要がなくなってきました。しかし、治療と仕事の両立は、

会社・医療機関の理解、協力が不可欠であり、会社は労働者が病気を悪化させずに働くことができる勤務時間や勤務場所等について柔軟に対応・調整できる仕組みづくりが必要です。

両立支援の内容

宮城産業保健総合支援センターでの「両立支援」は4つの柱からなっています。

①相談対応

治療と仕事の両立支援に関する相談は、電話や面談、メールにより対応しています。また、東北労災病院、石巻赤十字病院、仙台厚生病院に出張相談窓口を開設し、東北労災病院は平日毎日、石巻赤十字病院と仙台厚生病院は月1回相談対応を行っています。

②セミナー・研修会の実施

両立支援への理解や「事業場に

おける治療と仕事の両立支援ガイドライン」等の普及・啓発を目的に事業者等を対象としたセミナー・研修会を実施しています。両立支援制度の導入や両立支援のことを知らない管理監督者や従業員もいるため、研修等を通じて両立支援を会社に浸透させていくことを目的としています。また、「両立支援コーディネーター基礎研修」も開催されています。(今年度はコロナ禍の影響によりWebでの受講となっており、今年度の受講受付は終了しています。)



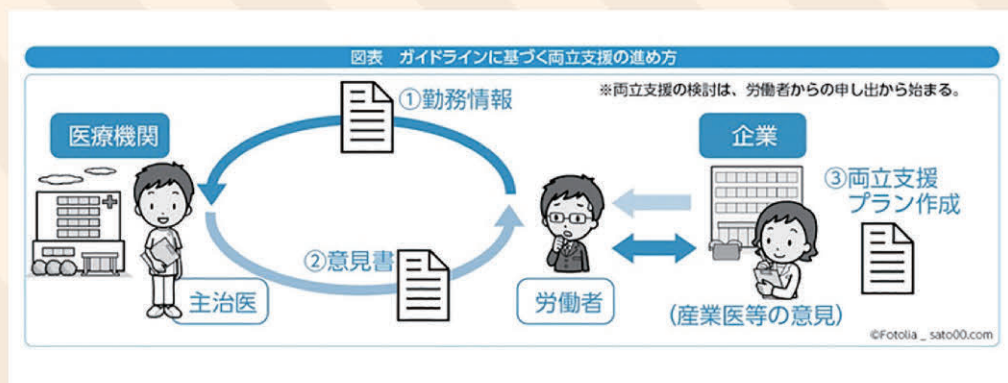
▲令和元年度 両立支援コーディネーター基礎研修 (宮城会場)

③ 個別訪問支援

会社側から「両立支援に活用できる制度がないので見直しをしたい」「疾病を抱えた従業員に対してどのような対応をすればよいのか」等の相談があれば両立支援促進員が会社に訪問し、両立支援制度の導入をサポートします。

④ 個別調整支援

両立支援促進員が会社を訪問し、医療機関と連携しながら、患者(労働者)が治療しながら仕事を続けるための事業者と患者(労働者)間の調整支援を行い、両立支援プラン、職場復帰プランの作成等について助言・支援をします。



厚生労働省HP

見えてきた課題

会社や主治医が両立支援について知識や理解がないと、会社と患者(労働者)との意見に食い違いが見られたり、主治医から必要な意見書がもらえなかったりとスムーズに支援が進まないこともあると言います。

また、労働者が病気になつてから「会社の制度を見直したい」と相談に来る会社が多いそうですが、労働者が病気になる前に会社において規程や制度、健康に関する取組みなどを見直しておくことが大切です。社会福祉施設のように専門職の多い職場では、人の代替えがきかず、他の職種への配置転換など難しい場合もあります。さらに24時間シフト勤務の場合、健康診断の有所見率も高いため、まずは労働者の生活習慣を整えるなど病気の予防に力を入れることが大切と言います。

今、伝えたいこと

労働者が病気になつた時、その病気の程度によつて働き続けることが難しいケースもあります。しかし、働き続けることのできる貴重な人材

が、早まって辞めてしまうことがないように、会社側で両立支援に取組めるよう職場環境を整えてほしいという願いがあるそうです。

そのためにも両立支援とは何か、なぜ両立支援が必要なのか、研修会等を通して皆さんに理解を深めてもらいたいと話していました。

(宮城県社協取材)

お問い合わせ先

独立行政法人 労働者健康安全機構
宮城産業保健総合支援センター
〒980-6015
仙台市青葉区中央4丁目6番1号 SS30 (15階)
TEL: 022-267-4229 FAX: 022-267-4283
メールアドレス: sanpo04@miyagis.johas.go.jp



厚労省イメージキャラクター
「ちりょうさ」

認知症の本人と家族を支援する 認知症の人と家族の会の活動について

公益社団法人 認知症の人と家族の会 宮城県支部代表 若生 栄子

認知症の人と家族の会とは

「公益社団法人 認知症の人と家族の会」は京都に本部を置き、47都道府県に支部を持ちます。宮城県支部は1995年10月に全国の36番目の支部として結成されました。2020年の今年で25年目を迎えます。

本部が結成された40年前は、認知症は「痴呆」と呼ばれ、介護保険もなく、介護家族は大変な苦勞のもとに、家族の会を結成し、助け合える社会を少しずつ築きあげてきたのです。

その3本柱となったのが「つどい」「会報」「電話相談」です。この3つは、当事者同士が繋がりを、励まし合い、助け合うための、欠くことのできない活動として現在に続いています。しかし、認知症の人の介護は、家族だけの力では限界があり、どうしても社会的に支える制度が必要です。そのため、「家族の会」は結成以来一貫して「介護保険制度」の制定と充実強化を求め、国や地方自治体に対して要望活動を行ってきました。

宮城県支部の活動状況

①「つどい」を毎月開催しています。

「定例のつどい（お悩み相談会）」を毎月1回、仙台市（みやぎNPOプラザ）や白石市で開催しています。また、本人・若年認知症のつどい「翼」を毎月2回、仙台市（泉区南光台市民センター）で開催しているほか、2017年度から新たに「看取り終えた方のつどい（こうさてん）」を年4回仙台市（みやぎNPOプラザ）で開催しています。

宮城県内での「移動相談会」、仙台市内での「介護講座・相談会」も開催しています。今年度は新型コロナウイルスの発生により、感染拡大を防ぐため「つどい」の休止や「相談会」の多くが中止となりましたが、現在は検温・手指の消毒・マスクの着用などのもと、十分な注意の中で活動が再開されてきています。

②「宮城県支部の会報」を毎月発行しています。

会報「ぼくればくれ」は宮城県支部の会員を対象に発行・送付していますが、仙台市内の各区役所やNPOプラザの情報コーナーなどでも入手できます。「つどい」で話し合われたお悩み「会員の

意見」「介護体験記」「介護にかかわる情報」などが掲載されています。

③月曜から金曜まで電話相談を行っています。

平日の午前9時から午後4時まで支部事務局で電話相談（宮城県及び仙台市の委託事業）を行っています。担当は家族の会の世話人（研修を受けた介護体験者）が交替で当たっています。（*電話相談は無料で、秘密を守ります）

「家族の会」のこれから

どんなに認知症に関する社会的理解や支援が進んでも、今なお困難な介護に苦闘している人たちが大勢おられるのが現実です。介護保険制度も制度創設から20年を経て改正が続き、「利用者負担増、給付削減」が進んできています。そうした中「家族の会」はこれまでも常に認知症の人や介護する家族の立場に立つて政府に提言し、さまざまなお話を聞いてきました。これからも、真の「介護の社会化」を目指して努力していきたいと考えています。

「忘れても
出会いが
つなぐ
この一歩」

お問い合わせ先

公益社団法人
認知症の人と家族の会
仙台市青葉区本町3-7-4
宮城県社会福祉会館 2階
Tel : 022-263-5091
(月～金曜9:00～16:00)



▲宮城県社協に世界アルツハイマーデーのポスターをお届けする若生支部代表（左）

このコーナーでは
福祉の仕事に関すること
団体などについて
紹介します！

「福祉のしごとフェアin栗原」

栗原地域において、福祉の仕事に関心のある方や福祉の職場へ就職を希望する方を対象に、福祉関連の映画鑑賞や市内の社会福祉施設・団体との面談コーナー、福祉の仕事に関する相談コーナーを提供するイベントを開催します。

映画鑑賞は予約制です。人材センターまでFAXで申してください。(FAX:022-261-9555)

◆日時:12月5日(土)10:30~15:00(受付10時~)

◆会場:栗原市市民活動支援センター
多目的室および大会議室
〒987-2216 栗原市築館伊豆2-6-1

◆内容:

- ・映画鑑賞「ケアニン~あなたでよかった~」
- ・市内社会福祉施設による紹介・面談コーナー
- ・宮城県福祉人材センター相談コーナー など

高齢者施設で学ぶ！ 介護講習・施設見学会のご案内

施設職員を講師に迎え、基礎的な介護技術を学べるチャンスです！参加申込は人材センターまでお電話ください。

◆会場:社会福祉法人東北福祉会 せんだんの里

◆日程:11月24日(火)13時~16時
11月25日(水)11時~14時 の2日間

◆定員:5名(先着順)

◆参加対象:

- ・地域にお住まいの介護技術を学んでみたい方、
- ・介護職・介護補助の仕事に興味がある方 など

「福祉のしごと面談会」を 各地域で開催します

県内3ヵ所において、福祉の仕事に関心のある方や福祉の職場へ就職を希望する方を対象に、社会福祉施設・団体との面談コーナー、福祉の仕事に関する相談コーナーを提供する面談会を開催します。

◆大河原会場

11月19日(木)13:30~15:30
大河原町駅前コミュニティ
センター(orga)2階
※事前予約不要



◆石巻会場

11月20日(金)10:00~12:00、13:30~15:30
ハローワーク石巻(TEL:0225-95-0158)
※ハローワーク石巻へ要事前予約

◆大崎会場

11月27日(金)13:00~15:00
大崎市古川保健福祉プラザ(fプラザ)2階
※ハローワーク古川へ要事前予約
(TEL:0229-22-2305)

イベント実施報告

9月10日(木)TKPガーデンシティ仙台(アエル21階)を会場に、人材センター主催のしごと面談会を実施しました。午前・午後の開催で、求人事業所30社、求職者129名のご参加をいただきました♪

コロナ禍での開催ということで換気や検温、ビニールカーテン等の感染対策をしながら、皆様のご協力のもと無事開催することができました。

他の就職イベントが減少している中での開催に賛同する声もいただき、今後のイベント運営に生かしてまいります。

開催の様子が、河北新報に掲載されました！



Twitter
フォローしてね♪
@miyagijinzaic

FUKUSHI-JOB SEARCH
福祉のお仕事



検索 <https://www.fukushi-work.jp/>

宮城県福祉人材センター

TEL:022-262-9777

貸付専用TEL:022-399-8844



『一般社団法人 YOMOYAMA COMPANY』の取り組み

〜地域住民の想いをつなぐ、地域交流拠点「まどい」における活動〜

が重要だと感じたのだそうです。

地域共生社会の実現とは、住民が暮らす一定の範囲を舞台に「誰もが自分らしく暮らしていると感じられる場所になること」を指すことではないでしょうか。丸森町にある地域交流拠点「まどい」の運営を通して、地域共生社会の推進に貢献する地域の居場所づくり等に取り組む、一般社団法人 YOMOYAMA COMPANY（以下、「ヨモヤマカンパニー」）の取り組みについて紹介します。

ヨモヤマカンパニーの活動内容

ヨモヤマカンパニーは、宮城県南部を中心に地域づくりや若者の人材育成に取り組んでいます。代表理事である八巻眞由（やまきまゆ）さんは、設立に至った経緯について、「きっかけは、東日本大震災です。」と話します。復旧・復興に向けて活動をする住民が次第に疲弊していく姿を見て、特定の人に負荷を掛けるのではなく、一人一人が自分のできることを行い、支え合うこと

が重要だと感じたのだそうです。

八巻さんは、宮城県南部で地域づくりを学ぶ塾での活動を経験し、その人材育成事業を引き継ぐ形で2017年にヨモヤマカンパニーを設立、2019年に法人化しました。

直後の2019年10月、台風の影響により丸森町は大きな被害に見舞われます。ヨモヤマカンパニーは丸森町社会福祉協議会と協働し、これまでの地元住民との繋がりを活かしながら災害ボランティアセンターの運営を行いました。これらの経験から、自分たちの町を守るためには住民一人一人の力が欠かせないことを再認識し、人材育成の必要性を強く確信させられたと言えます。

地域交流拠点「まどい」

2020年7月、丸森町中心商店街の一角に、青色の壁が印象的な地域交流拠点「まどい」がオープンしました。ここはヨモヤマカンパニーが運営する地域に開いた居場所で、3つの顔を持ちます。昼間は地域住民が気軽に集え

るカフェ、夕方は子どもたちが立ち寄れる居場所、そして夜は地域の人がつながる社交場としています。

地域住民の願いを叶えるため、「まどい」ではお客さんのやってみたいことを積極的に受け入れています。これまでに、お弁当コンテストに出場する地元の高校生にキッチンを貸したり、子どもから大人まで参加できる書道教室イベントを行ったりしました。一見カフェに見えるこの空間は、地域住民の想いを受け止めることで様々な顔をもせる空間へと変化します。



▲看板メニューのソフトドリンク、「まどい青ぞら」（左）と「まどい夕ぞら」（右）です。

今後の展望

八巻さんは、今後の展望について次



▲カウンターで飲み物をつくる八巻さん。落ち着いた雰囲気店内では、自然と話が弾みます。

（宮城県社協取材）

のように語ります。「多種多様な人々がこの場所に集い、潜在化したニーズに気づき、支え合う事の価値観を共感することが、地域住民一人一人が自分らしく生きる社会に繋がると信じています。」

地域住民の様々な想いに彩られた「まどい」には、円になって腰を落ち着ける居場所になって欲しいという意味が込められているそうです。ヨモヤマカンパニーは、地域住民の思いを受け止め、時に背中を押す居場所である「まどい」を通して台風被害の復興支援や、人と人の繋がりがづくりに力を入れて取り組み続けます。

コロナ禍でも支えたい！住民とともに“つながる支援”を

～ 蔵王町社会福祉協議会の取り組み ～

コロナ禍での外出自粛が長引いたことで、高齢者が体調を崩すケースが目立っています。家に閉じこもりがちになり、運動不足で足腰が弱り、人との会話が減ることで、孤立・孤独を感じている高齢者は少なくありません。

今号では、感染拡大防止に配慮しつつ、地域住民等による福祉活動・ボランティア活動を支援している蔵王町社会福祉協議会（以下、「蔵王町社協」という。）の取り組みを紹介します。

① ダンベル大作戦で心も体も健康に！

新型コロナウイルス感染拡大により、交流の機会やサロン活動の開催が制限される中、高齢者等が孤立しないよう、つながりを絶やさないうための新たな活動が生まれています。

蔵王町社協では、高齢者の交流・健康維持を目的とし、社屋に隣接する人工芝コートで「ダンベルトレーニング」を行っています。これは、民生委員を退任した男性が中心となり始めた活動ですが、「今では活動に魅せられた女性や現役民生委員も多く参加する人気の活動となった」と話すのは同社協の山家宗一朗さん。「集まる機会が無くなり、人と会う機会が減ってしまった」と言っていた退任民生委員の一言が活動のきっかけでした。今では健康づくりの域を超え、支え合い・見守りの意識が活動者に芽生え始めています。



▲トレーニングはダンベル歴20年の「遠刈田湯友ダンベルクラブ」（2020.9.20発行 いきいきライフみやぎに掲載）の皆さんに教えていただいています

② 子どもの安心・安全も住民の地域力で！

また、町内のある小学校で、感染症防

止対策のために先生方が毎日消毒作業を行っている話を聞いた蔵王町社協小野聡さんは、ボランティア連絡協議会事務局を担当する同僚の大沼卓也さんに相談。同連絡協議会からコロナ禍でのボランティア活動について相談を受けていたこともあり、すぐに協力体制を整えることができたとのこと。今では、ボランティア連絡協議会と地元の婦人会の皆さんとで分担して活動にあたっています。

「町内には、積極的にボランティア活動や支え合い活動に取り組んでいる住民がたくさんいます。地域の困りごとに対して、地域資源をつなぎ合わせ、役割を発揮してもらうだけではなく、ここで芽生えた新たなつながりを大事にして、伸び出た枝葉のようにさらに広がっていくことが、目指すべき地域共生社会ではないだろうか？」と生活支援コーディネーターを担う小野さんは言います。「住民・ボランティアの皆さんと相談する・される関係が徐々にできあがり、地域の課題を自分たちのこととして考え、取り組む姿に頼もしさを感じる」と大沼さんは地域の力強さを再確認していました。

「気づく」ことから「支え合う」地域づくりに向けて

地域の中で展開されるちよつとした集いや交流、または健康づくりの機会を通じて、個々の住民が地域の課題や困った状況にある住民の存在に「気づく」よう

な機会はとても重要です。蔵王町社協の取り組みから気づかされたことは、関わった住民が主体的に活動していることです。活動に参加するきっかけは、「頼まれたから」であったとしても、その活動を継続していくため、参加者自らが活動の意義を自覚し、進んで関わることの重要性に改めて気づかされました。

蔵王町社協ではすべての役職員が、コロナ禍であつても住民の声に耳を傾け、寄り添う姿勢を共有しています。それぞれが役割を発揮し、みんなで話し合い、連携を図りながら、地域づくりに取り組む蔵王町社協の今後に期待したいと思います。

（宮城県社協 蔵取村）



▲(左から) 小野さん、大沼さん、山家さん。チームワーク抜群です☆

蔵王町社会福祉協議会

人口 / 11,767人
(令和2年7月末現在)
蔵王町社会福祉協議会
職員数 / 65人



蔵王連峰の東麓に位置し、町域の約6割が山林・原野で占められています。特産物は果物、チーズ、高原大根など。特に県内一の生産量である梨はおすすです♪

復興

宮城

の

いま



▲仙台市太白区にあるレピコロレ。福島県内など、遠方からも多くの方が訪れます。

宮城県仙台市太白区

「ブルーランジェリー レピコロレ」

「今」をキラキラと輝かせること

～浪江町への想いを胸に～

今でも続く、浪江町との関わり

平成30年1月に仙台市太白区にオープンしたパン店「レピコロレ」には、おいしいパンを求めて、連日多くのお客さんが訪れます。レピコロレは、福島県浪江町で営業していたパン店「サンメリー」が東日本大震災時の原発事故により営業を継続できなくなり、店名を変え仙台市で再出発したお店。今井まゆさん、夫の将文さんはこのお店の3代目夫婦です。

今井さんによると、サンメリーはパン店のほか、浪江町や近隣の町の学校給食用のパン、米飯を手掛け「地域とのつながりがとても強いお店」だったとのこと。今井さんは、仙台市にレピコロレを開店した今でも毎週浪江町へ行き、パンの出張販売を行なっています。出張販売を始めたことについて「特別な理由はなく、パンを作れるようになったので浪江町に届けることは自然なことだった」と話します。出張販売の際、購入したお客さんが「サンメリーの味と似ている」と話していることがあったとのこと。「私達のパンの味を覚えてくれる人がいる」と嬉しく思い、今でもパンを届け続ける原動力になっているそうです。

新たなスタートを切る決断

浪江町の自宅やパン工場は、福島第1原発から直線距離で約8kmの所にありました。震災発生翌日に避難指示が出され、今井さん家族は親戚らを頼って避難生活を続けた後、平成23年6月に仙台市に移り住みました。仙台市に来てからも「いつかは浪江町に戻りたい」と願っていました。

「立たない状況が続く、徐々に「新しい生活を始める必要があるのではないか」と考えるようになったと言います。それでも浪江町で学校給食を手掛けるなど、地域に密着した仕事をしてきたことから、町外で店を開くという決断に至るまでには時間がかかったそうです。避難生活の開始当初、転校先の小学校の始業式で見た、娘が周囲から離れてポツンと一人で座っている後ろ姿に胸を痛めたと話す今井さん。一歩を踏み出した



▲パンを通して、現在も浪江町との関りは続いています。

たい気持ちと、本当に良いのかとためらう気持ちで揺れ動く中、「最後は子ども達を含めた家族それぞれの今後の生活を考え、仙台市で再出発することを決めたい」と話します。

今をキラキラ輝かせること

取材当日には、浪江町から福島県郡山市に移住した方が来店しました。今井さんによると、浪江町から各地に移住した方が来店することは度々あるとのこと。現在、地域で愛される存在となっているレピコロレは、一度は途絶えかけた今井さんと浪江町の方々の関わりを、再びつなぐ場所にもなっています。

仙台市で新たなスタートを切るという決断をしてからは、とにかく前を向いて走り続けてきたという今井さん。「仙台市で再出発すると決めた以上、この選択が間違っていないか」と思えるように、今をキラキラと輝かせたい」と話します。店名のレピコロレは、フランス語で「彩りを放つ稲穂」という意味。彩りを放つ稲穂と同じくキラキラと輝き続けるため、今井さんはこれからも走り続けます。

(宮城県社協取材)

宮城シニア美術展 日本画の部

最優秀賞 高橋 哲子さん (80歳)

今年9月3日から4日間、宮城県社協が開催した「第28回宮城シニア美術展」日本画部門において最優秀賞を受賞した高橋哲子さん(仙台市泉区在住・80歳)にお話を伺いました。

高橋さんは小学生の頃から絵を描くのが好きで、担任の先生の推薦で種々出品されていたそうで、60歳の退職を機に余生の生きがい、目標として日本画を習い始めました。カルチャー教室は20年になりますが、「自分ではまだまだ納得のいくものはできていない」そうです。

絵の題材は身近な室内にあるものや庭の草花、道端の雑草などで、難関な風景や人物は挑戦するも失敗ばかりだそうです。これからもより上を目指して挑戦を続けていきたいとのこと。

日本画の難しいところは、思いどおりの色が出ないところ、重ね塗りで色を出そうと四苦八苦しても、乾いてみると意図していた色ではないことがしばしばで、やり直ししたり、破棄したりと苦労の連続だそうです。

日本画を描いていて一番嬉しいことは、応募展で入選・入賞し、家族に褒めてもらったときだそうです。さらに次の作品へと意欲が湧



▲日本画 最優秀賞 高橋哲子さん

いてくるとのこと。また、大学生のお孫さんも美術部に属し建築関係のデザイン方面に進んでいるとのこと。今後の抱負は、「応募展、特に河北展に入賞したい」と意欲的に話していました。

シニア美術展については、「友人などまだ知らない人が多いようなので、絵画教室や公共の場にポスターを掲示するなど、もっと多くの方が出展できるようにPRしたらいいと思います」とご意見をいただきました。

こんなことやってます

ここでは、宮城県社協の事業をご紹介します

地域支援センター なごみな

○通所介護事業所 やわらぎ

デイサービスです。「ご自宅での生活が少しでも楽になるよう、機能訓練・レクリエーションを通し、心身の健康が維持できるように支援します。車いすの方も安心して入浴できるように機械浴も備えています。四季の行事や催し物を楽しんでください。もちろんご自宅までの送迎も行っております。

○居宅介護支援事業所 なごみな

在宅のお年寄りのためにケアマネージャーがケアプランを作成したり、いろいろなサービスの紹介や調整をしています。また、費用の計算や請求を要介護者等に代わって行います。なんでもご相談ください。

○訪問介護事業所 むつみ

ご自宅へホームヘルパーが出向いて、身体介護や洗濯・掃除などの生活介護のサービスを行います。

○共同生活援助事業所 富ヶ丘ホーム

仙台市泉区泉ヶ丘地区に1ホーム、富谷市富ヶ丘地区に2ホーム、知的障害者対象のグループホーム(定員12名)を運営しています。グループホーム等に入居されている方の日常の生活支援や相談支援を行っています。

○その他の福祉に関する相談窓口業務

宮城県社会福祉協議会が運営する事業所と連携し、相談や情報提供等を実施します。

【お問い合わせ先】

住所 黒川郡大和町小野字前沢31-1
連絡先 022-341-0220(代表)



県社協掲示板

Information

● 温かい真心をありがとうございます

下記の方々から本会に寄附金をいただきました。温かい真心に感謝申し上げます。
(令和2年10月19日現在)

<寄附金>

- 令和2年 9月 2日 株式会社ブリッジさまより
社会福祉事業のために …………… 20,000円
- 令和2年 9月28日 東北労働金庫宮城県本部さまより
県内の障がい者等の就労・勤労に関する団体・施設のために … 388,000円
- 令和2年10月 2日 株式会社ブリッジさまより
社会福祉事業のために …………… 20,000円



▲東北労働金庫宮城県本部さまより

● 宮城県船形の郷が開所しました

昭和48年に大和町に開設された障害者支援施設「宮城県船形コロニー」は、建物の老朽化に伴い建て替えが進められてきました。この度居住棟2棟が完成し、令和2年9月1日より一部利用が開始され、施設の名称も新たに「宮城県船形の郷」となり開所しました。当日は、村井嘉浩宮城県知事出席の下、開所式が執り行われ、式後に内覧会が実施されました。

今後は令和5年度まで建て替えが進められ、令和6年度より全面的に利用が開始される予定となっています。



▲開所式の様子

お問い合わせ

障害者支援施設 宮城県船形の郷
(旧宮城県船形コロニー)
〒981-3625
黒川郡大和町吉田字上童子沢21
TEL : 022-345-3282

宮城県内の福祉施設・介護事業者向けの総合補償制度

宮城県地域福祉総合補償制度をご利用下さい

ポイント1

社会福祉協議会の会員である社会福祉施設、介護サービス事業者が加入できます。

ポイント2

地元宮城県で加入手続き・事故対応・その他アフターフォローを行いますので安心です。

ポイント3

団体制度のため、有利な団体割引が適用されます。(一部適用外)

ご不明の点は
お問合せください!

お問合せ

社会福祉法人宮城県社会福祉協議会
三井住友海上火災保険株式会社
株式会社オンワード・マエノ

TEL022-225-8476
TEL022-221-3171
TEL022-762-9915

※この制度の各補償は宮城県社会福祉協議会が保険会社と締結した保険約款により行います。



この印刷物は、植物性油インキを使用し、環境にやさしい水なし印刷方式を採用しています。



「福祉みやぎ」は宮城県社協のホームページでもご覧いただけます。また、ご意見、ご感想、とりあげて欲しいテーマなどをお寄せください。表紙の作品も募集しています。